

造形活動を通し、自らつくり出す喜びを味わう  
—形や色などと豊かに関わって—

大阪市立生魂小学校 研究部

## 1. 研究主題設定の理由

本校の子ども達は明るく、素直で何事にも意欲的に取り組むことができる。一方で、色々なことができていても自分はできると自信を持たず、自尊感情の低い子どもが多いと感じられる。

子ども自らが、手や体全体を使って自然や身の回りにある様々なものに直接働きかける図画工作科は、豊かな心を育てる教科でもある。図画工作科では、豊かにものに関わりを深め、自分のよさや可能性を存分に発揮しながら自己実現を進めていくことができる。さらに、他の子ども達のよさや可能性に共感することができるように学習を進めることによって、自らのよさや持ち味に気づき自信を持つことができる。

昨年度より図画工作科を研究教科とし、表現と鑑賞活動を通して子どもがいきいきとつくり出すことのできる造形活動の指導法の研究を進めた。その結果、自ら材料や色を選び、楽しんで、思いを形や色で表現を工夫する児童の姿が見られるようになった。

本年度は、「自ら学び、自ら考えその楽しさを児童自身が味わうことができること」、「造形的なものの見方や考え方を伝え合う場を大切にすること」、「自分の思いや考えを豊かに表現すること」を研究に取り組んだ。

## 2. 研究の内容

### ① 基礎基本の指導の工夫・支援の工夫

- 表現活動の基本（ゆっくり、ていねいに、心をこめて、一度きり）
- 材料、用具の扱い方の基本的な技能  
(パレットの使い方、金づちの使い方 など)

### ② 子どもの持てる力が働く題材の選択

- 導入の工夫
  - ・ 絵本や物語の読み聞かせ
  - ・ 体験・経験の想起
  - ・ 作品の見本や写真を見せる
- 題材名の工夫
- 指導計画の工夫

### ③ 鑑賞・評価のあり方の工夫

- 活動途中や最後に鑑賞時間を設定することで、自分のよさや友だちのよさに気づき、自分の表現に生かしたり、次の活動の意欲へとつなげたりする。

### 3. 研究の視点

本研究は、「基礎的・基本的な事項を身につけること」「子どもの主体的な活動を重視すること」という考えに立って、次の3つの視点で研究を進めることにした。

#### ① 基礎基本の指導の工夫・支援の工夫

子ども達がそれぞれの思いを造形活動の中で、自己表現することができる指導法について研究を進めた。

#### ② 子どもの持てる力が働く題材の選択

子ども達が「おもしろそう」「やってみたい」「できそう」と思い、主体的に造形活動に取り組むことができる題材の研究を進めた。

#### ③ 鑑賞と評価のあり方の工夫

造形表現と鑑賞は相互に関わり合っている。また、本時の学習のめあてを示すこと、具体的な評価規準を明確にもって授業を行い、子ども達の造形活動を見取り評価する。

### 4. 研究の成果と今後の課題

#### <研究の成果>

#### ① 基礎基本の指導の工夫・支援の工夫

- 各学年、授業研究の題材や使用する材料や用具を使った内容の実技研修を充実させ、基本的な指導技術を学んだ。その結果、知識修得にとどまらず、表現や発想の楽しさを指導者自身が体験でき、児童の支援に生かすことができた。
- 題材における基礎的・基本的なことがらを明らかにし、その定着を図るために、必要な資料や学習指導材を作成し掲示したことにより、個の表現の支援や助言に役立った。

#### ② 子どもの持てる力が働く題材の選択

- 題材の導入の際、想像のお話の世界や音、材料などとの出会いの場を工夫したことで、「おもしろそう」「やってみたい」「やれそう」という意欲を持たせることができた。

#### ③ 鑑賞と評価のあり方の工夫

- 表現活動の過程で鑑賞活動を行うことにより、活動の見通しをもたせ、発想の広がりや表現意欲を高めることができた。そして、自分や友だちのよさが互いに実感することでき、友だちの思いを受け止め、よさを理解しようとする心が育ってきた。
- 指導者が図画工作科の学習の評価規準を明確に持つことができ、児童の出来上がった作品を評価するのではなく、表現活動中の児童の姿を見取って評価するようになった。

#### <今後の課題>

- 学習到達度を明確にし、ルーブリック評価のあり方を探り、授業改善に努める。
- 豊かな発想を引き出す指導言葉や指導方法をさらに研究する。
- 他教科においても「主体的・対話的で深い学び」について研究を深める。